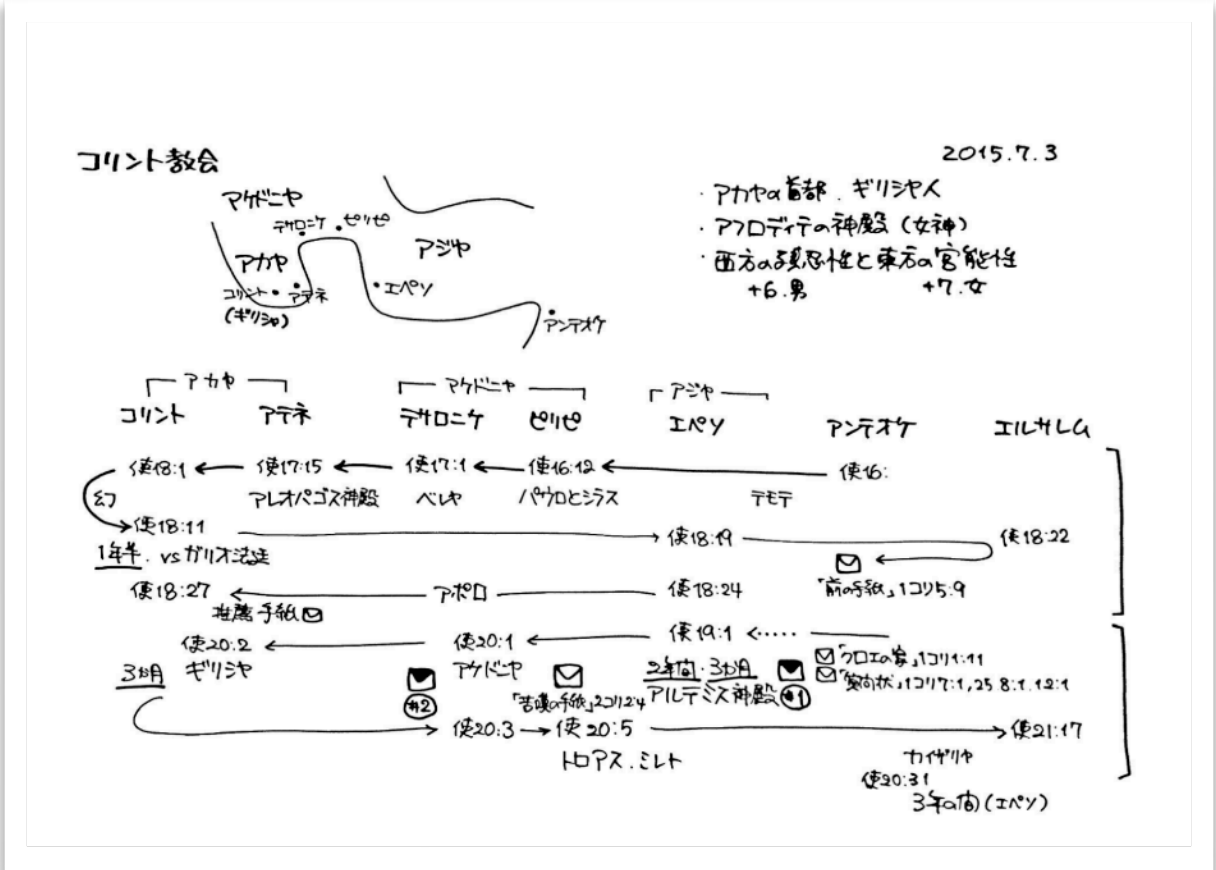
使徒の働き コリントの教会



コリント人への手紙の学びをしています。コリントの教会というのはどこにあるのかということと、それぞれ第1の手紙、第2の手紙が、パウロの人生の中でどのタイミングで送られているのかということを見ようとしました。

これが地図です。この辺がギリシャ。アカヤ地方というところにコリンドとアテネがあります。マケドニアというのはこの隣です。マケドニアにテサロニケ、ピリピ。アジアというところに渡ったところにエペソ、トロアスがあります。エルサレムはこの辺で、アンテオケがありますね。アンテオケから始まって、第1の旅行、第2の旅行、第3の旅行、そしてローマへ、という4つのことがずっと普通に言われています。その3回、4回しか旅行がなかったのかどうかはよく分かりませんけれど、記録されているのはそれです。

この場所(地図)を横に書きました。使徒1６章のところにアンテオケに集まって、そこから送り出されました。最初はエペソは通過しています。アンテオケからマケドニアに行っちゃいます。マケドニアに行って、ピリピのところで、パウロとシラスが囚われて牢から連れ出されるというのが、使徒16章12節。次にベレヤの教会に行きましたね。テサロニケの教会、ベレヤの教会が17章。17章15節で今度アテネに行って、アレオパゴス神殿での話。それでコリントに行きました。コリントで幻があってそこに留まりなさいと言われたので一年半いました。ガリオの法廷での戦いがあって、ここからはすっ

と戻って、エペソを通って、また来るよと言って、エルサレムを通って、アンテオケに戻るというのが、第2の旅行と言われました。

そして、アンテオケに戻っているのですけれど、その時にアポロをコリントに送っています。アポロがコリントにいる時に、エペソに来ます。エペソの教会には2年間いました。3ヶ月いて2年間いたのか、2年間の中に3ヶ月が入っているのか、ちょっと分かりませんけど、2年間、長い間エペソにいました。エペソを出て、マケドニアに行き、マケドニアからギリシャに行って3ヶ月間いました。ギリシャに行ったと言っている時には、これはアテネ、コリントの辺りですから、コリントにも行っているでしょう。そこから今度、マケドニアに戻って、トロアスに来て、そこから船に乗って、エペソを通らないで、カイザリヤ、エルサレムまで戻ります。そういう全体の話です。

コリントの教会はこのアカヤという地方の首都で、ギリシャ人の地域です。アフロディテの神殿があります。女神の神殿があって、本に書いてあったのは西方の残忍性と、東方の官能性が一つになっているひどい町。ギリシャでもひどいと言われている町だったということですね。これは、第6番目の命令に反する男性的な罪と、第7番目の命令に反する女性的な罪というようにも見れるかなと思います。そういうコリントの教会に対して、手紙を何度か送っている。その手紙を送っているこのタイミングがここ(表)に書いてあります。手紙を送り合っていますので、ここ(表＃1)で第1コリント、ここ(表＃2)が第2コリントかなと。エペソで送っている手紙(表＃1)と、エペソから出てピリピとかマケドニアで送っている手紙(表＃2)という、この第1コリントと第2コリント。

第1コリントの中で、「前の手紙に書いたように」というふうに言っているので、この前の手紙はこの辺(表「前の手紙」1コリ5:9)で送ってるかなと。クロエの家の人たちから聞いています。それと質問が、どうもコリントから来ているので、それに答えていますということが分かります。

第2コリントの時に「苦しみと嘆きの中で涙ながらに手紙を書きました」というのがありますので、それが第2コリントの前に書かれていて、ギリシャに行く前に書かれているということなので、この箇所(表＃2)で書かれていると思います。

こちらの方(表＃1)は、教会の中の話です。ここ(使徒18:24)ではアポロを送っていますね。アポロを送っている時に、アポロを推薦する手紙というのも、兄弟たちと一緒にくっつけて送っています。ここでアポロがいるので、第1コリントの中で「私はパウロにつく、アポロにつく」と言って問題になっていますよね。それはここ(表＃1)に書かれているところです。この第1コリントの方は兄弟の中の兄弟同士の問題、特に不品行と偶像に捧げた肉についての問題を取り扱っています。

今度この(表＃2)「パウロにつくアポロにつく」という問題になっていますから、そこに偽教師が来ます。「偽り者をちゃんと取り扱ってください」という手紙を送ったりしています。ですから、この父としてのパウロ、父と子供達という関係の、パウロとコリントの教会。父としてパウロがコリントの教会に手紙を送って、十字架と復活の主と、主のしもべとしてのパウロを自分は推薦している。あなた方が推薦状でしょというようなことを言っているこの第2の手紙というのがここに書かれています。ですから、第2の手紙を見た時にアジアで受けた苦しみを知ってるよねという時は、この時の話をしている。これから行くよと言っている手紙だよというような位置付けでここで送っています。

前にも話しましたけれど、御霊によって導かれているその40年間ですけど、父はみことばを送って、父は御霊を送って導いている。パウロもイエス様と同じように、弟子た

ちを送って、テモテやテトス、シラス(シラスはまあ同僚なのかな)しもべたちを送って、なおかつ、手紙を送って、ことばによって、御霊のことばによって、教会を導いて建て上げようとしている。建て上げようとしているという手紙だということが言えますので、そのコリントの教会、特にエペソに長く留まっていた。コリントには長く留まっていたというふうにわざわざ記録されていますので、そのエペソの教会とコリントの教会での問題というのは、大切な問題になっているのだと思います。